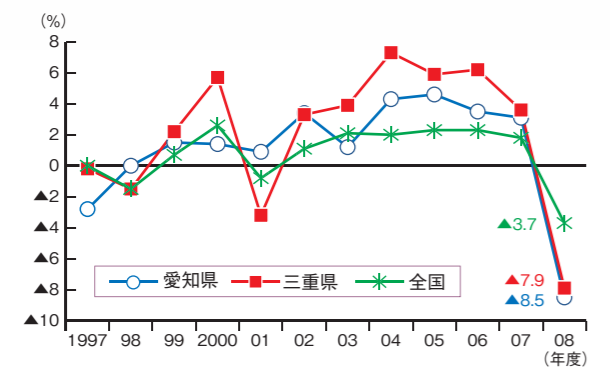


データでみる中部のすがた

愛知・三重の製造業の状況と優位性向上に向けた取り組み

図表1 愛知県・三重県と全国の実質経済成長率比較<前年比>



(資料) 三重県「平成20年度県民経済計算速報(早期推計)」、愛知県「平成20年度あいちの県民経済計算早期推計結果」、内閣府「四半期別GDP速報」

図表2 国内生産額に占める輸出の割合<2008年>

(単位:百万円、%)

順位	業種	国内生産額	輸出	輸出/国内生産額
1位	電気機械	45,543,844	17,779,039	39.0
2位	精密機械	4,224,619	1,496,043	35.4
3位	輸送機械	59,659,117	20,218,062	33.9
4位	一般機械	31,506,370	10,261,653	32.6
5位	化学(除医薬品)	22,977,362	5,444,277	23.7
6位	非鉄金属	10,141,340	2,224,435	21.9
7位	その他の製造工業製品	8,449,990	1,652,262	19.6
8位	運輸	42,637,810	7,257,416	17.0
9位	繊維製品	4,289,107	598,492	14.0
10位	プラスチック製品	11,045,355	1,532,860	13.9

(資料) 経済産業省「平成20年(2008年)簡易延長産業連関表」
(注) 同省発表の「取引額表(50部門・時価評価表)」を当社にて一部再計算。例えば、電気機械は、取引額表の22民生用電子・電気機器~27その他の電気機器を合算。

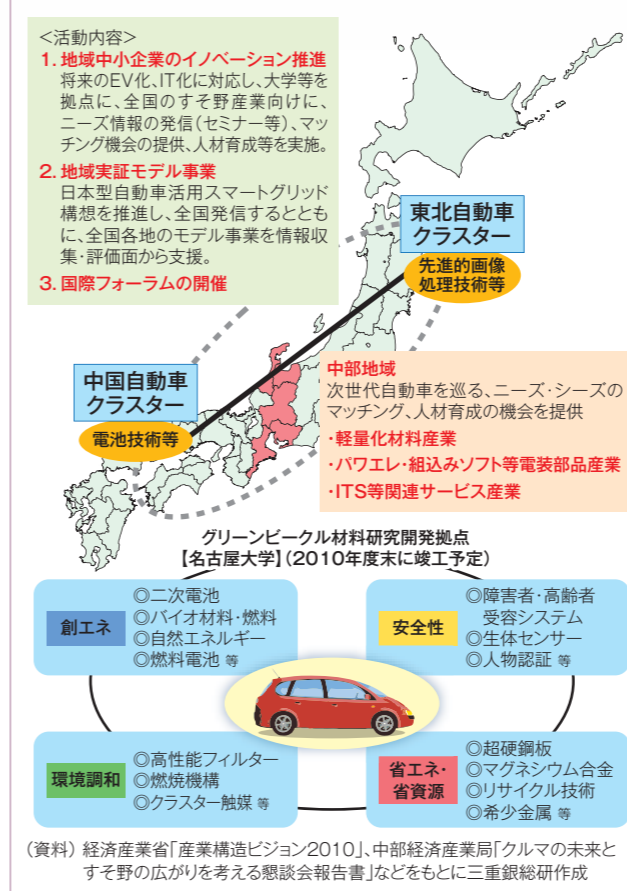
図表3 県内総生産に占める5業種(化学・一般機械・電気機械・輸送機械・精密機械)のシェア<2007年度>

(単位:百万円、%)

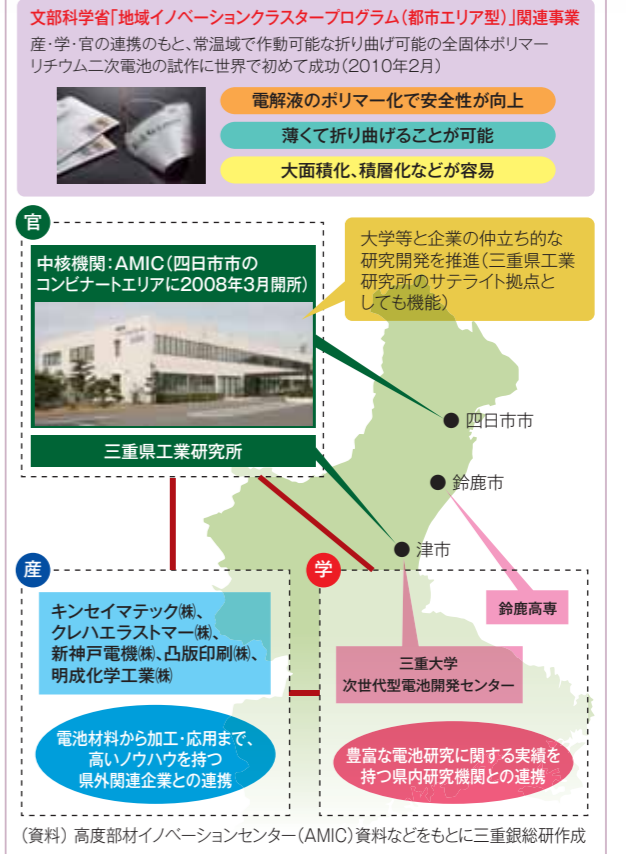
順位	都道府県	県内総生産	5業種計					5業種計/県内総生産	
			化学	一般機械	電気機械	輸送機械	精密機械		
1位	三重県	8,207,134	234,187	326,316	1,060,739	638,731	3,159	2,263,132	27.6
2位	愛知県	37,171,925	239,458	1,423,318	1,167,549	6,083,906	73,735	8,987,966	24.2
3位	静岡県	16,927,524	473,549	551,489	1,081,171	1,440,566	156,027	3,702,802	21.9
4位	滋賀県	6,017,129	253,010	370,873	435,312	192,533	33,553	1,285,281	21.4
5位	群馬県	7,498,211	187,702	317,296	322,459	607,921	20,334	1,455,712	19.4
6位	長野県	8,147,872	63,623	378,897	791,705	188,320	106,684	1,529,229	18.8
7位	栃木県	8,268,453	106,222	216,977	544,807	558,251	76,490	1,502,747	18.2
8位	山梨県	3,236,400	21,948	191,898	257,053	43,261	58,392	572,552	17.7
9位	山形県	4,208,671	110,183	130,314	437,043	49,373	15,721	742,634	17.6
10位	山口県	5,840,349	628,886	98,134	124,739	143,782	2,049	997,590	17.1

(資料) 内閣府「県民経済計算」

図表4 「次世代自動車クラスターネットワーク」の概要



図表5 高度部材イノベーションセンター(AMIC)を中核とした全固体ポリマーリチウム二次電池の開発動向



1. 愛知県・三重県の成長率の推移と、その背景にある製造業の特徴

- 愛知・三重両県における近年の実質経済成長率の推移を全国と比較すると(図表1)、総じて、景気回復局面では全国と比べて成長率が高くなり、景気後退局面では低くなる、という特徴が読み取れます。それでは、こうした背景としてどのような要因が考えられるでしょうか。
- そもそも、わが国では最近、経済の海外需要に対する依存度が上昇し、輸出による景気への影響が大きくなっています。そこで、業種別に外需依存度をみる指標として、経済産業省「簡易延長産業連関表」より、2008年の国内生産額に占める輸出の割合を算出すると(図表2)、電気機械、精密機械、輸送機械、一般機械、化学が、外需依存度の高い上位5業種となっています。
- さらに、内閣府「県民経済計算」より、これら5業種が県内総生産に占めるシェアをランキングすると(図表3)、2007年度は、三重県が27.6%で1位、愛知県が24.2%で2位となっています。このことから、愛知・三重両県では、製造業のなかでもとりわけ外需依存度の高い業種が集積し、経済全体に占めるシェアが高いことから、外需の動向が主要業種の生産活動を左右するとみられ、2008年度も、リーマン・ショック(2008年9月)に端を発する外需の落ち込みが、両県の成長率を大きく下振れさせる要因になったと考えられます。

2. イノベーションを通じた地域の製造業の優位性向上に向けて

- したがって、愛知・三重両県では、これら製造業の各業種がイノベーションを通じて「他地域ではつくりえない製品」を生み出し、産業の優位性を維持・向上するとともに、国内外の幅広いエリアで新しい需要を発掘し、短期的な不況にも負けない体質を身につけることが重要です。
- この点について、経済産業省の「産業構造ビジョン2010」をみると、地域産業の強化に向けた先進事例として、①愛知県を中心とした中部地域の「次世代自動車クラスターネットワーク」、②三重県の「高度部材イノベーションセンター(AMIC)」の2つが示されています(図表4・5)。
- 次世代自動車クラスターネットワークについては、その中核として、名古屋大学に「グリーンビークル材料研究開発拠点」が設置される予定で、需要拡大が期待される次世代自動車に関する知見を融合する一大拠点となるのが期待されます。一方、四日市市に開所したAMICでは、コンビナート企業や研究機関などが集結し、高度な機能性素材にかかる研究開発が行われており、折り曲げ可能なポリマーリチウム二次電池の試作に世界で初めて成功するなどの成果も出ています。
- 両県では、こうした事例を足掛かりとして、ものづくり産業の「付加価値」を引き上げることが、経済の安定的・持続的な成長に向けたカギになると見込まれます。

渡辺 洋介